



原爆ドーム前にて堅信組一同（左より岩崎神父・高見大司教）

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959-00072
印刷・(株)才津印刷所

「飲み方（飲み会）」

主任司祭 岩崎 晋吾

こちらに来て、早六ヶ月となりました。土地にも人にも徐々に慣れてきまして、もうすっかり奥浦人となっています。福江の島の自然の傍で生活するとは、本来の人の生き方であるとしみじみと感じています。そもそも人も自然の一部。切り離されて生きていくことが不自然なのです。ここは、ある意味人間らしい生活を送れる場所だと思っています。そしてもう一つ「人は一人では生きていけない。」人は社会的な存在でもあります。人と愛の交わりをもち、支え合い、活かしあって初めて人は人となっていく。そのうえで自然だけでなく人々との交わりも欠かせないものです。こちらへ来て「飲み方」がすごい！毎週欠かさずどこかで飲み方があり飲んでいます。この飲み方が人と人を結ぶ大切な場になっている

わけです。

イエス様も飲み方が好きだった。福音にも飲み方の場面がいくつも描かれていますね。教会運営のアイディアも飲み方の中で生まれてきたこともありました。イエス様も「今度はあの地方に行ってみようか。そして、こんなことをやってみよう」と弟子とともに話していたに違いないと勝手に思っているわけです。自然にも人にもちゃんと交わっていくこと。福音のイエス様を見るとその交わりが浮かび上がってきます。

秘 跡

○永遠の安らぎを

《帰天》

八月十六日

ドミニコ竹口久幸さん（八三歳）

十月十三日

ミカエル濱崎孝信さん（四七歳）

《転出》

フランシスカ宮崎フジエさん

（大阪教区 泉佐野教会へ）

雲仙に行つて

三年 入口駿一郎

ぼくは、うんぜんにいつて、じごくをみました。ちよつとくさかったです。じごくのまわりがあつくて、木が黒くなつていました。木をさわってみると、あつかったです。じごくは、何んだあるのかなーと思ひました。じごくで、しんだ人は、かわいそうだなーと思ひました。ぼくは、うんぜんで友だちができるかなーと思ひていたけど、できませんでした。くそーと思ひました。あとぼくは、がくつとなりました。

四年 入口 舞桜

私は、八月一日から三日まで長崎にいきました。うんぜんにいつてびっくりしました。理由は、おもったより広がったからです。じごくは、とてもくさかったです。またびっくりしました。長崎で、なる教会のなほさんと、

かなさんをしりました。じごくからかえつてくるときは、福江教会の子と友達になりました。なる教会のしんぶさまのカメラで、福江教会の友達と写真をとりました。たのしかったです。じごくは、ちかづくだけであつかったです。来年もいつて、もつと友達をつくりたいです。来年は、ぜんいんでいきたいです。うれしかったです。

五年 鍋内 颯太

ぼくは、雲仙の召命フェスティバルに行つて思つたことは、一つ目は神父さまのげきです。神父さまのげきは、ある少年が神父さまになるための話でした。

ぼくはとちゅうでできたヤンキーがやさしかったのがビックリしました。

二つ目は、雲仙地ごくです。あのにおいとあつさがすごく、においをすわな



いためにいきをとめてたことをおぼえています。とにかく雲仙は楽しかったです。

六年 濱崎 壱成

ぼくがびっくりした所は、雲仙のおんせんで、なにもしてないのに、ぶくぶくしていたところがびっくりしました。

神父様たちのげきでは、色々な生きかたがあつたので、ぼくが神父様になるには、とてもむずかしかったです。長崎県内の神父様たちは、たくさんいたのでとても多かつたからびっくりしました。レクレーシヨンのシューズとぼしでは、ぼくは、くつと

ぼしでは、かなりとぶと思つてたけど、ぜんぜん飛ばなかつたのでくやしかったです。ぼくは、ホテルで楽しかつたことは、テレビをみたり友達とカードゲームなどをしました。売店でカップラーメン

などを食べたりしました。とてもおいしかったです。楽しかつたです。とてもいい勉強になりました。



堅信組

ピース スタディー

今年の夏休み（八月五日〜七日）堅信準備中の中学一、二年生九名が広島へ向かい、原爆記念行事を通してピース・スタディー（平和学習）を行いました。

これは、長崎教区の主催で毎年、広島原爆記念行事に参列する一般信徒対象の行事だったものを、今年はピース・スタディーと名を変え、学生中心の行事として行われ、これに浦頭教会の子供たちが参加したわけです。子供たちはまず参加する前に教会学校において広島原爆の準備の勉強会を行い、また、この学習の目的や方法を事前に確認しました。

四日、福江島を出発し、その日はカトリックセンターに宿泊し、次の日、朝早くバスに乗って広島へと向かいました。高見大司教様を団長に、学生が四十

数名、引率の司祭、スタッフ合わせて総勢五十名を超える参加で出発です。



朝七時に出発し広島に着いたのは十三時。長い道中でしたが子供たちはあまり疲れを見せず、早速一日目の学習に入りました。まず、広島教区カテドラルである世界平和記念聖堂におきまして『証 1945〜2011』と題して、三名の方の話がありました。今回は東北の震災もあり、被爆体験だけではなく、震災を体験した人、被災地でボランティアを行っている方の経験や考えを聞くことができました。原爆と震災に共通する命の尊さについて考えるきっかけ

けになったのではないかと思っ
ています。その後は、平和公園
に場所を移し、祈りの後、再び
記念聖堂に向かって平和行進を
行いました。広島最大の繁華街
を多くのカトリック信徒が聖歌
を歌い、祈りを込めて行進しま
す。そのために多くの警察官に
よる交通整理が行われ、そのお
かげで無事聖堂まで到着するこ
とができました。子供たちにとっ
ては、良い思い出になった体験
だったと思っています。あれほ
ど多くの人前で聖歌を歌い歩く
ことはなかなかないことです。
聖堂に着くと平和祈願ミサで
す。長崎の平和祈願ミサと違っ
て、多くの司教様方は全国から
集まり、ミサをささげました。
あれほどの数の司教様を同時に
見ることもこれまでなかったで
しょう。みんないつもと違うミ
サを体験しました。

二日目は、平和記念資料館と
平和公園の見学です。長崎の資
料館より大きな建物で、展示さ
れている数も断然広島の方が多

くあって、子供たちは、この資
料館見学が一番に残っている
様子でした。帰りのバスの中で
一人一人感想を言わせられてい
ましたが、どうもこの資料館の
印象が強かったようです。

そこから長崎への帰路に就き、
夜七時長崎へ到着、宿泊。台風
のため次の日帰ることができず、
一日長崎に宿泊し、予定を一日
過ぎて福江へ帰ってきました。

今回のこの機会は、子供たち
が「命と人間関係のあり方」、
そして「正義」について子供な
りに理解を深める機会になった
と思っています。 岩崎 晋吾



第20回 純心子供の 集い

純心子どもの集いも、今年で二十回目を迎えました。今年も参加してくれる子供たちが少ないのでは…と心配していましたが、神様が思いがけない参加者を上五島の曽根教会から送って下さいました。神に感謝！ということで、今回は十四名の子供たちと『Love & Peace』というテーマで、平和のために私たちができる愛の業について、劇やお話の中で学びあいました。

ジュエスチャーゲームやたいりょうゲーム、げきをしてたのしかったです。

奈留 一年 くずしま ののか

きょう、りょうかねえちゃんともりなねえちゃん（志願者）がきました。みんなで八じかん

あそびました。たのしかったのでまたさんかします。

浦頭 二年 しらはま みく

今日、たのしかったことは、ゲームです。魚をうちわであお



いでゴールまで行くゲームやしがんせいのおねえさんたちが考えてくれたゲームはぜんぶわたしのBチームがかちました。話も聞きました。テーマはラブ&ピースでした。ミサもしました。げきはきんちようしたけど、

上手にできました。おともだちがたくさんできてたのしかったです。

浦頭 二年 はまさき さやか

楽しかったことは、ジュエスチャーゲームです。いろいろな友だちができて、しらないうちに仲良くなっていて楽しかったです。ミサのまえに練習をしたげきをがんばっておぼえて、ミサでできたのでよかったです。

曾根 三年 川津 つぐみ

楽しかったことは、ゲームの絵しりとりです。げきでは、さいしょはセリフをおぼえるのが大変でしたが、セリフを言えたので、うれしかったです。ミサの中で神父様が、せんそうをしている国のことをくわしく、分かりやすく話してくれたので勉強になりました。いっぱい、いろんなことをまなべたので、うれしかったです。

曾根 三年 長山 はな

楽しかったことはゲームで、みんなと仲良くできたことです。大漁ゲームで負けたのがくやしかったです。なかなかセリフがおぼえられなかったけど、練習をしておぼえられたのでよかったです。

奈留 四年 葛島 加奈

わたしは、今日ここにきておもしろかったです。なぜなら、最初はみんな静かだったけど、遊んでいく中でいろんな人と友だちになれたし、AチームとBチームにわかれて劇をしたからです。勉強になったことは、マザーテレサのことです。ほんとうに楽しい一日でした。

曾根 四年 大水 桃季

今日、一番楽しかったのは、ジュエスチャーゲームで、まねがなかなかできなかったけど、答えられたのでうれしかったです。絵しりとりゲームでは、描いた絵が分からなくておもしろかったです。また来たいなあと思います。

ました。

曾根 四年 岩坪 明日花

楽しかったことは、今日一日です。さいしょのゲームは、かもつれっしやで、その次は、ことばあそび、そして大漁ゲームをしました。午後からは目かくしりレーや、絵しりとりをしてとっても楽しかったです。

神の島 四年 宮崎 凜

わたしがさいしょのゲームで一番楽しかったのは、魚をおおいで進めるゲームです。昼ごはんのカレーはとってもおいしかったです。志願生のお姉さんたちのゲームはジュエスチャーゲームと絵しりとりが楽しかったです。げきでは、ゆずりあいの大切さや、親切な心を学びました。

浦頭 五年 大浦 緋莉

今日、みんなと仲良くできてとても楽しかったです。とくに楽しかったことは、みんなと協力してゲームをしたことです。

ミサの中のげきでは、なかなかせりふが言えませんでした。でも楽しくできてよかったです。また、行きたいです。

奈留 五年 葛島 奈保

一番心に残ったことはミサの中の劇です。平和について、そんなに深く考えたことがなかつ



たので、これからは、けんかにならぬような言葉づかいをして、他の人と仲良くなれるようにしたいです。平和のための祈

りを神父様に教えてもらい、いいお祈りを習ったなあと思えました。今日一日で、友達がふえたことがうれしかったです。私は、自分から話しかけられないので、話しかけられた時はすぐくうれしかったです。今日は、とてもいい経験をしました。

曾根 五年 岩坪 笑香

今日、楽しかったことは、リーダーのお姉さんたちがしてくれたゲームや劇です。その中でも、表現がむずかしかったけどジュエスチャーゲームが楽しかったです。劇は最初きんちようしましたが、だんだん慣れてきて楽しかったです。

曾根 五年 川津 樹

今日はとっても楽しく過ごせました。特に楽しかったことは、ジュエスチャーゲームで、紙に書いてある物を自分の手や体を使って表現したり、人がするのを見て答えるのが楽しかったです。次に楽しかったゲームはジャン

ケンゲームで、最後まで勝って一番前だったのでうれしかったです。ミサの時、緊張したけどみんなの前でしっかり朗読できてよかったです。これからも、ミサに行つて、しっかり祈りたいです。

曾根 中一 江口 夏那美

子供たちはゲームを通して、友だちとの交わりや一致を楽しみ、お互いにLove & Peaceを体験していたようです。また参加したいとの子供たちの声援に答え、来年もやります。参加お待ちしています。最後に、子供たちを参加させて下さったり、またおいしい心遣いや、共にミサをささげて下さった神父様方、本当にありがとうございます。

長崎純心聖母会

Sr. 濱崎 久美



キリシタン史に学ぶ

Sr.片岡 講演会

福江小教区百周年の記念事業の一環として、片岡瑠美子シスター（長崎純心大学教授）をお招きしての講演会が九月四日（日）福江教会で行われ、下五島小教区全域の多数の信徒が参加しました。

片岡シスターは、姉である片岡千鶴子純心大学長とともに長崎キリシタン史研究の第一人者として活躍しておられます。



講演は「キリシタン時代―神と隣人へのご大切を生きる人々―」

をテーマに、キリシタン宣教開始から江戸時代初期の禁教時代に至る

(一) 日本人司祭養成の動きとヴァ

リニャーノの活躍

(二) 都の教会を中心に展覧された

女子修道会成立の動き

(三) イタリア、ポルトガルから始

まった信徒の隣人愛の実践と

してのミゼルコルディア（慈

悲）の兄弟会が長崎で行なっ

た慈善活動

等についてお話されました。

テーマのご大切とは「愛」の事

であり、現代を生きる我々にとっ

てもイエス様が言われた『神様

への愛』と『隣人愛』の実践こ

そが信仰の第一の道である事、

ザビエル時代以後のキリシタン

信徒が懸命にその事を追及して

いた事に触れられました。

信仰の歴史を振り返り現代の

信仰に活かす事は今回のシノド

スのテーマでもあり、私達小教

区信徒にとっても貴重な講演と

なりました。

「おくりびと」映写会

八月二十一日、二番ミサ後に神羊館に於いて「おくりびと」の映写会が、主任司祭の意向のもと、広報委員会主催、婦人会協力のもとに行なわれた。

参加者は30名位で少なかったものの、人の死に直面する時の悲しみを美しく描写する作品であったと思う。TVでも放映されていたため、参加者が少なかつたのはやむをえないところ、『このドラマは、一人の主人公はオーケストラの奏者だったが、突然、解散を通告される。

その後、仕事がなく悩んでいる時、一枚の求人広告が目にとまった。その内容「旅のお手伝い」と記されていた。本人はてっきり旅行代理店の仕事だと思いきり、面接にいった所、一人の社長らしい人と、女性事務員らしき人だけであった。「どんな仕事ですか」と尋ねると「旅立のお手伝い」との事。本人の希望も選択の余地もない。すぐ様、仕事

に連れて行かれる。この仕事、死者の着物を着替え、顔に化粧してやる。これこそが「おくりびと」の仕事であった。妻には本当の事を言えず、出社する時には、黒のネクタイは締めないで、ひたすら隠そうとしていたが、ある時、知人からもまともな職に付けと言われ、その後、妻にも本当の事がわかってしまった。そこで妻は家出してしまったが、子供が出来たと突然戻って来た。そこで主人にもう一度考え直してほしい、生まれて来る子供も、いじめの対象になるからと頼むが、もうその時は「おくりびと」の仕事にはまり込んでいた。そんな時三十数年前、自分を棄てた父親が近くの海岸に打ち上げられ、本人も随分迷ったが、その時の葬儀社の死者に対する扱いが雑だったために「待って下さい」「あなたはいったい何んですか」その時、妻の一言「この人はおくりびとの仕事です」と認めた本当に涙する映画でした。」

奥浦のキリスト教遺産群(Ⅶ)

浦頭の牢屋跡

長崎ウエスレヤン大学講師(非常勤)

加藤 久雄

明治元年九月、久賀島から五島キリシタンの迫害が始まった。続いて奥浦でも迫害が始まった。時は厳寒のころ、奥浦のキリシタンの多くも捕縛されたが、留め置くスペースが足りないため、弱い婦人や子どもたちは放免となった。その中で五十九名が浦頭の中尾喜助の家に閉じ込められた。そこは五十畳敷きの非常に大きな家の畳から床板まで剥ぎ取り土間にして、その上に少しの藁を敷いた粗末な牢だった。牢は役人が三名、足軽が四名によって監視された。藁はだんだん擦り切れて、蚤やシラミがわいてきた。食物はサツマイモだけでひもじさはいいようがない。キリシタンはただパライソ(天国)にいくのだと思えば堪え忍んだ。衣類は一枚以上の着用がゆ



写真① 浦頭の牢屋跡

るされず寝具もない。夜は藁やムシロをかぶって寒さをしのいだ。一か月以上、陰暦の正月ごろの厳寒の中、入牢していたのである。解放後も大人の男の何人かは再び入牢している。そのなかで、浦頭の本村浅右衛門、堂崎の山本次郎太、源平、久右衛門、大泊の梅木兵蔵、浜泊の江口庄市、鍋内伊助ら代表者は栄林寺近くの田中というところの牢に



写真② 市指定史跡楠原の牢屋跡

二年間も閉じ込められた。

この浦頭の牢屋があった地は、現在、草が高く生い茂っている。一方、三井楽教会のキリシタン資料館では、この牢屋に閉じ込められ信仰を貫いたキリシタンの食べた貝殻が大切に展示されている。岐宿町楠原や三井楽町嶽でも同様の迫害があった地が市の指定史跡にされ、このような繰り返すべきではない歴史を未来に伝えるために保護されている。このように明治初期の五島崩れの迫害を物語る重要な『史跡』は、いつまでも大切にしていってほしい。五島キリシタンの信仰の遺産である。

おたより

主の平和

浦頭教会の神父様、信徒の皆様、熱心な祈りとともに、「島のひかり」を拝読させて頂き、ふるさとへのなつかしさと、新たな心と体の支え、よろこびを味わっております。皆様のためにもお祈りいたしております。

神奈川県藤沢市

聖心の布教姉妹会 Sr大川ヨシノ

みな様のご尽力ご奉仕のお蔭で島のひかりをお送りいただき感謝しております。

八王子市 純心聖母会修道院

Sr浜口 昌子

いつも浦頭教会のニュースを故郷を遠く離れた、島のひかりのようにさわやかな光の一筋を私たちのもとに届けて下さり、ありがとうございます。

いつまでも島のひかりが輝きますように。

長崎市小江原 Sr赤尾津奈恵

いつも島のひかり御送り頂いて有難うございます。家内と二人でなつかしく拝見致して居ります。三田の住人に成って早くも10年になります。小さい体が重く感じます。島のひかりは、五島の灯台と想っていますので、光り輝くよう願っています。

三田市 梅木栄二郎

いつも島のひかりを楽しみにしています。今回も純心子ども集いの記事を載せてくださり、ありがとうございます。私もよいニュースをたくさん届けられるよう、これからもがんばります。皆さまもお体に気をつけて。

純心聖母会 Sr 赤尾 綾

ごていねいに教会紙、島のひかり、お送りいただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

皆様どうぞ、おすこやかな日々となられますようお祈り申し上げます。

長崎市 兵頭 京子

いつも島のひかりを遠くまで送ってくださって、ありがとうございます。毎回楽しみに読ませて頂いています。もうしばらくアメリカで、がんばって来ます。

アメリカ・ワシントンにて
神言会司祭 赤尾 道夫

☆読者の皆様、いつも丁寧なおたより、経済的な支援を含めてご愛読本当にありがとうございます。

島の光は、千九百七十二年・三月一日に初発刊して以来、三十九年間、皆様と共に浦頭教会の歴史を歩いてきました。神羊館の棚に置かれた五十巻毎の冊子には、先人達の浦頭・堂崎教会を中心として神の愛を伝え、隣人愛を実践して行ったかけがえのない結晶が刻まれているようです。私達はこれを記録に残し、皆様に伝えることが使命と感じ、頑張っています。

編集部一同

ふるさとだより

浦頭に新宅完成

かねてより建築中でした赤尾末治さんの新宅が、八月十日に完成いたしました。

棟上げ式の当日の夕刻になりますと、近所や慈恵院の子供達が集ってくるなか「まきもち」の振舞がありました。県道沿いの好位置にありまして通りすがりの人々も加わり、笑顔と楽しい歓喜の声の一時でした。



新宅はバリアフリーや手すりが施され、随所に高齢者や身障

者に住みやすい、まさに「住む人にやさしい家」の言葉どおりです。

地区の人々から「新宅で幸福に長生きしてね」の言葉を胸に神の御加護のもとに希望の日々が続きますように。

なお、隣りに実姉さんの新宅が十一月に完成めざし建築中です。

奥浦SSC 県大会出場

十チーム参加した五島地区予選において、大規模校をなぎ倒し、県大会出場を勝ち取った精鋭達は、いざ「晴れの舞台」である大村の地に降り立った。

奥浦少年サッカークラブにとつては四年ぶりの県大会出場になり、子供達だけでなく海を渡った応援団にも緊張感が降りそそいだ。一回戦、強豪佐世保FCとの試合では、選手は感動の試合を見せてくれた。川端歩選手が、DF二人にはさまれGKがつめてきた所に高度なつま先シュ



ト、保護者は一瞬シーンとなったが、その後大声がこだました。試合はずっと佐世保FCの流れの中にあつた。強シュートがゴール右隅にとぶ、「やられた」瞬間 GK 佐藤一羽が横っ飛び一閃、スパーセーブ。試合には二対一で負けたが、多いに自信をつけた一戦だった。

結局、大会成績は一勝一分二敗。

子供達は、大きな舞台を経験し、一まわり大きくなって再び五島の地を踏みしめた。



十月九日(日)、好天に恵まれた中、地区の一大イベントである市民運動会が奥中で行なわれた。

今年には岩崎神父様が「初出場」。100m走の40代の選出として、地区の皆さんや、信徒の声援を受け颯爽と走られました。

競技では、笑いあり、感動あり、手に汗にぎる場面の連続でした。最後の地区対抗リレー(男女混合)は、例年になく激戦で、順位がめまぐるしく変わり、「ハラハラ、ドキドキ」の名勝負でした。

奥浦地区市民運動会

がんばったよ!

平和のぼら保育園第三十九回運動会が九月十日(土)に開催されました。あいにくの天気でしたが、たくさんの方々に集まっていただけで盛大な運動会となりました。平和のぼら保育園なら



ではの楽しいアットホームな運動会となりました。最後は、岩崎神父様のバンザイ三唱でしめていただきました。

『クリスマスおゆうぎかい』にも、皆さんおいでくださいね。

舞い上がれ 元気百倍 奥浦魂

九月二十五日、絶好の運動会日和の中、第二回奥浦小中学校合同運動会が開催された。今回は小学校グラウンドで行われ、子ども達の熱い声援が晴天の秋空に響きわたった。

元気百倍も二百倍もの子ども達は、練習の成果を發揮し、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた。先生方も「魂 We Love Okura」とプリントしたお揃いのユニフォームを新調しており、今大会への意気込みが伺われた。



ナイターペタンク大会

九月二十七日から三十日にかけて行われた、恒例のペタンク大会。



今年は、初めて競技するといふ神父様と、小田洋市さんと3人「晋吾ーズ」で参加。しかし何ともエンジンのかかりが遅いこのチーム。相手に点数を先に取りられないと調子が出ない。予選からずっと負けそうでなかなか負けない。あれよあれよのように、各地区の強豪を次々に撃破。そしてついに決勝戦。決勝も予定通り？相手チームが先行そこからじわりじわりと追いつ

げ逆転で優勝！こんなことが起きていいのかと、本人たちが一番驚いた。勝因は、ズバリ

「開き直り」。賞品のビールと大きな伊勢海老、大変おいしく頂きました。 鍋内 誠次

作家デビューしました

身近な方が作家デビューです。三十歳前後の方は小学生時代に御両親に御世話になったかと思えます。父親は浦頭の出口健一さんの甥で、現在は久賀小中学校の校長をされている松本芳文さん、加代子さんの娘で京都市在住の氷月あや（ひづきあや）さんが、今年十月に文芸社より本を出版しました。『きみと、妖精と、真冬の夏休み』のタイトルでティーンエイジャーにも読んでもらいたいエンターテイメント小説との事です。紀伊国屋書店他、全国の書店でも十月一日から販売しており、ネット通販も行っています。五島ではオックスフォード（シティーモール2F）で販売しております。夜は涼しくなって過ごしやすくなってきた読書の秋に合わせて読んでみてはいかがでしょう。

お詫び

188号に、御芳志を頂いた方のお名前の文字違いがありました。大浦喜一 ↓ 大浦喜市に訂正します。お詫び申し上げます。

ありがとう

大震災もあり、財政的に大変なこの時節に「島のひかり」への協力、御支援頂きありがとうございます。ごさいいます。部員一同、無にせぬよう頑張ります。

- 米国 ワシントン 赤尾 道夫 神父様
- 長崎市 Sr 赤尾 津奈恵様
- 藤沢市 Sr 大川 ヨシノ様
- 三田市 梅木 栄二郎様
- 福岡県 赤崎 岩光様
- 宮原 大楠 末次様
- 長崎市 兵頭 京子様
- 大阪市 赤本 時代様

編集後記

長崎からの船内の中だった。衝撃的な映像に愕然となった。東日本大震災から七ヶ月、被害状況が明らかになっていく。東北の人々が受けた経済的、精神的ダメージを思うと胸がいたい。特に、震災孤児が八十二名もいる状況。子供達のこれからの生活、心のケア。国は相当の覚悟を持ってやって欲しいと思う。マスコミ等で最近よく取り上げられる様になったが、日本のGDPに対する教育費の割合は先進国の中でも最も低い。子供に対する大人の考え方がここに表われているのではとかんぐったりする。そんな中、日本のカトリックは昔から苦難の中にいる子供達に優しくした様に思う。この地域にもその代表の奥浦慈恵院がある。私達もカトリックの一員として“隣人愛”を持ちながら関わっていく必要があると感じる。 木口 重憲